

卒業論文を完成させた感想や教訓	小林先生の指導について
<p>卒業論文を書き終えて、文章にして伝えることが一番難しく感じました。これまで論文を書いたことがなかったため、先生からどうゆう意味なのかを聞かれることが多くあり、自分は文を短縮してしまうことが多いことが分かりました。言い方を少し変えてみるだけでも、全然伝わり方や捉え方が違うことも気づきました。</p> <p>卒業論文の完成は、非常に達成感がありました。正直最初は自分が12000字も論文を書けるとは思っていませんでしたが、作成する期間では自分の興味のある本を読めたので面白かったです。やはりテーマを決めるところが最も重要だと思うので、これから書く後輩たちは自分のやりたいテーマを沢山探してみるいいと思います。途中で書くのが嫌になってしまわないように、興味があることを見つけられるといいと思います。</p> <p>あまり今までになかった「風評被害」を取り上げたことで、他の人の例がありませんでしたが、自分の書きたいことを書きました。ご指導いただきありがとうございました。</p>	<p>最初はオンラインのゼミで卒業論文を作成するなら全員集まる必要はないのではと思っていました。他のゼミの学生は先生と一対一だったと言っていました。ですが書き終わってから思ったのは、ゼミ生全員頑張った感を味わえました。自分以外にも論文を頑張っている仲間がいることを毎週確認できたので、最後まで書けたと思いました。来年度もオンライン授業になるのであれば、ゼミ生全員で授業を続けていけるといいと思いました。</p> <p>また私は本論を書いている期間に、結論にどう繋げたらいいかととても悩みました。論題を変えた方が良かったかなと思っていましたが、アドバイスを頂いてイメージを掴むことができました。先生には私の言いたいことを、表現させようとして頂いたことが有難かったです。学校に行けずオンラインでの授業になった1年でしたが、時間を取ってくださりありがとうございました。</p>
<p>卒業論文の製作過程を振り返ると正直「大変だった」ということが第一に思い浮かびます。小林ゼミではしっかりと卒論の作成スケジュールが組まれていて、時には徹夜することもありました。大変だなと感じることは多かったのですが、その分1年間かけて作成した卒論が完成したときの喜びや達成感は一ひとしおでした。</p> <p>就職活動と並行して卒論を作成するのは大変でしたが、しっかりと時間と労力をかけた分、自分納得のいく卒論を書くことができました。</p> <p>また、卒論を書くにあたって改めて日本の女性の貧困の現実に目を向けましたが、想像をはるかに超える壮絶な現実を目の当たりにして、時には書籍を読みながら涙を堪えられない時もありました。同じ日本でこんなにも苦しい生活を送っている人々がいるのに、自分は何もできないもどかしさを感じることもありました。どのようにしたら彼女たちの苦しみを正確に伝えることができるのか、彼女たちにとって今一番必要なこととは何か。沢山悩み今回論文を書き上げました。正直、私の出した結論が貧困に苦しむ女性たちの本当に望んでいることなのかという不安は少しあります。だからこそ、これからもこの問題について情報を収集し学び続けて、自分にできることが何かないか模索し続けて行きます。</p> <p>卒業論文の作成は必ず自分の糧になる貴重な体験なので、就職活動やそれに伴う資格取得など辛い日々が続くとは思いますが、後輩の皆さんにはぜひ最後まで諦めずに取り組んで欲しいと思います。</p>	<p>約1年間、卒業論文のご指導ありがとうございました。まずいちばんは、小林ゼミで卒論が作成できてよかったです。小林ゼミの毎週しっかりと小林先生と学生が卒論について意見交わすというやり方のおかげで、自分の想像していた以上に完成度の高い卒論が作成できました。逆にこれを「大変だな」「しんどいな」と思う人もいるかもしれませんが、こういう環境はとても恵まれていると思います。他のゼミに所属している友人は、毎週ゼミはあるが自由参加のような形で、先生からの指示も細かくないので卒論の作成は4年の秋頃から始めたという話を聞きました。その友人を見ているとやはり時間や同級生や先生との意見交換をする場面が少なく、卒論の作成が大変そうでした。その点、小林ゼミでは毎週先生や同級生と自分の卒論を共有して意見を交わす時間があり、そのような恵まれた環境が卒論の内容をより豊かなものにすることに影響していたなと感じます。</p> <p>今回「女性の貧困」というテーマで卒論を書き、上辺だけしか知らなかったこの問題について深く知ったことは、私の人生観や価値観に大きく影響を及ぼしました。それも小林先生が私たちの卒論に真摯に向き合ってくださり、様々な意見を交わす機会を設けてくださったことが大きく影響していると思います。本当にありがとうございました。</p>
<p>卒業論文を書く中で、情報の信頼性について考えさせられた。普段自分たちがSNSやインターネットで得る情報が如何にあいまいで部分的な情報であるか、たくさんの文献や政府のデータを見比べて分かった。イメージや憶測ではなく正確で最新の情報を、読み手側の視点から考えた表現で書くことはとても大変だった。</p>	<p>オンラインという特殊な形でのゼミでしたが、特に不便もなく卒論を書けたと思います。</p> <p>思っていたよりもたくさん修正部分があって少し悔しかったですが、初期の文章と提出した文章の差は歴然で、読みやすく曖昧な表現がない文章になりました。</p> <p>個人的にパソコンの操作が苦手でしたが、ガイドラインを掲示してもらったおかげでなんとか達成できました。</p>

卒業論文を完成させた感想や教訓	小林先生の指導について
<p>様々な問題が起きるなど、卒業論文の完成までは大変苦勞しました。しかし、そうした問題が起きることをあらかじめ予想し、卒業論文の作成手順を示してくれた先生のおかげで何とか完成までたどり着けました。最初は文献を集めるところから始まり、核となる文献を決めて自分の卒論をどのような形で書いていくのかを考えました。章別構成と論題を決めたことでようやく卒論の本論の作成に入り、結論、序論の順番で進めていきました。その作業の1つ1つで先生やゼミの仲間たちと議論をすることで、よりよい卒論になっていきました。</p> <p>卒論を作成していく上で、わからない点や躓いてしまうことがあると思います。そうした時には先生に必ず相談することをおすすめします。すぐに相談することで先生がゼミの授業外でも時間をとってくださり、そこで議論を深めることもできました。オンラインならではの利点をいかし、卒業論文を完成することができてよかったです。</p>	<p>卒論作成にあたってゼミの時間外でたくさん時間をとっていただき、大変感謝しております。オンラインならではのやり取りはとても有意義なものでした。今後もオンラインの利点を生かして対面のゼミを行うことがより良いゼミになると思います。</p>
<p>卒論の文章自体の完成度に関しては、先生に丁寧にご指導いただいたこともあって満足している。人生でここまでの長さの文章を正式な形で書けたことはあまり多くない。</p> <p>しかし、コロナ禍の影響で大学図書館がほとんど使えなかったために、参考文献の収集に支障が出たことは痛かった。図書館であらかじめ情報収集を行って本の傾向に目星をつけその上で参考文献を購入する、というプロセスを踏めれば、より自分なりの考えを深められたのではないか、という悔いが残る。金銭的負担も少し大きかった。</p>	<p>書籍の校正のように細かい部分まで教えていただき、ありがとうございます。大学生活4年間の間にレポートを書くことは数あれど、論文という形で文章について丁寧な指導を受ける機会はなかったのも、とても勉強になりました。</p> <p>可能であれば、原稿の枚数の上限をもう少し増やしてほしかった(15枚くらい)と思います。12~13枚だと言いたいことの要点を書いたり図表を使うとすぐに埋まってしまうので、カットせざるをえない部分もありました。大学生活の総まとめだし(僕以上に)どんどん書きたい！という人もいるのではないかと思いますし、来年度以降は原稿枚数についてご検討してみてもどうでしょうか。</p>
<p>自分の文章力の無さに改めて気付く事ができました。言いたいことがあっても、それを文章にして受け手に対して伝えることの難しさを強く感じました。そして、就職活動と並行して行い、就職が決まってからも資格などの勉強もあり難しさを感じていました。</p> <p>今年はコロナ禍の中ではありましたが、オンラインを通じてご指導を頂き進めることができました。</p>	<p>感想にも書かせて頂きましたが、先生のご指導により自分自身の文章力の無さに改めて気付く事ができました。社会に出る前に改めて気付かせて頂き感謝しています。個別での指導でもしっかりとご指摘して下さったからだと感じています。完成度が低くても毎回添削をしてくださりありがとうございます。社会に出て文章を書く時には先生に言われたことを意識して書くと思います。3年間お世話になりました。</p>
<p>物流業界の課題や様々な物流戦略を、物流企業に入社する前に学ぶことができました。卒業論文を書いて終わりではなく、実際に物流業界で働く者として、ここで得た知識を少しでも活かせるようにしたいです。</p> <p>教訓としては、自分では何を言いたいのかを把握していても、読み手にとってはわからない表現をしていた部分が多かったことです。書いた文章をしばらく寝かせてもう一度読み返してみると、誤った表現に気づき、新しい文章を思いつくことが多々ありました。</p>	<p>曖昧な表現で悩んでいた時に、的確な修正をしていただけて納得できたことが多かったです。こだわりを強くし過ぎることによって、読み手に誤解を招いてしまうことも教訓になりました。的確にわかりやすく伝えることは、会社でプレゼンをする場面では非常に重要だと感じました。</p>